

「2012語り部交流会 inあきた」開催報告



平成24年10月20日、にかほ市平沢のにかほ市総合福祉交流センターで、「2012語り部交流会 inあきた」が開催され、県内外から約260名が来場されました。

本交流会は、「語り部・かたりすと」として全国を舞台に活躍している元NHKキャスターの平野啓子氏と農林水産省、秋田県の三者の協同により、昨年度から、全国に先駆けて実施している催しで、身近にある農業や農村に関する歴史や文化、それらの現在への継承を語り伝えることで、昔から受け継がれてきた農村に宿る精神^{こころ}を再確認し、それを将来につなげていこうというものであります。

昨年11月には、美郷町において「結いの精神^{こころ}」をテーマに開催し、約400名の参加がありました。



主催者あいさつ

(難波 秋田県農林水産部次長)



共催者あいさつ

(山上 地球人会議会長)



来賓あいさつ

(林田 農林水産省農村振興局次長)

今回は、「農業農村から学ぶ自然との共生の精神^{こころ}」をテーマに、鳥海山麓^{こころ}一帯における農地や疏水の歴史、その開拓に尽力した郷土の先人の足跡、農村伝統文化などを見つめ直すことにより、農村に宿り続ける「自然との共生の精神^{こころ}」を再確認し、そして、その精神を現在の様々な取組に活かし発信していくことで、地域活力の向上や農村振興につなげていくことができないかを考えるという趣旨のもと行われました。

「2012語り部交流会inあきた」のコンセプト



はじめに、日本初の温水路である『上郷温水路群』、秋田県農業の一大変革とされる「乾田馬耕」の導入と「耕地整理」に大きな功績を残された『齋藤宇一郎』の足跡、江戸時代の俳人「松尾芭蕉」が紀行文「おくのほそ道」の最北の地として訪れ、その景観美を讃えた『象潟九十九島』、さらには何百年もの間継承され続けてきた鳥海山麓の『農村伝統文化』等について、秋田県山本地域振興局長の菅原徳蔵氏にご講演いただきました。



菅原山本地域振興局長の講演

続いて、語り部の平野啓子氏より、「おくのほそ道」の語りや、平沢小学校児童と一緒に齋藤宇一郎翁の功績を紹介する紙芝居を朗読していただきました。思いのこもった情緒溢れる平野氏の語りに、会場の参加者から大きな拍手がわき起こりました。

また、平沢小学校4年生5人の上手な朗読には、語り部の平野氏も大変感激しておりました。



平野氏の情緒あふれる語り



おくのほそ道の暗唱を披露された来賓の林田次長



平野氏と平沢小学校4年生児童による齋藤宇一郎翁の紙芝居の朗読

後半の「語りフォーラム」では、冒頭に横山にかほ市長と鳥海山小滝舞楽保存会の吉川会長に、自然との共生を背景とした現在の取組をご紹介いただきました。

はじめに横山市長から、鳥海山の伏流水の豊かな恵みが、稲作や漁業などにおいて、山・里・海の全域で活かされていることや、大震災の翌日、夫婦町の宮城県松島町にいち早く救援物資の搬送を行い、特に、水の支援（給水車の搬送）が大変喜ばれたことを、実際に被災された方からいただいた感謝のメールを紹介しながらお話しいただきました。そして支援活動を通じ、普段当たり前のように溢れている「水」が、豊かな自然が育む大切な地域資源であるとの認識を新たにしたこと、また今後も知恵を出し合い自然と共生していくことの必要性等についてお話しいただきました。



横山市長による取組事例の発表

続いて吉川会長から、日本初の温水路である「上郷温水路群」の誕生の歴史や、保全や管理を継続する苦労についてお話しいただきました。そして、温水路群が「土木遺産」や「疏水百選」、「県の有形文化財」に指定される等、先人の残してくれた偉大な遺産であることを再認識しながら、今後の豊かなふる里づくりに活かしていきたいとの思いを述べられました。また、小滝番楽をはじめとした農村伝統文化の継承の意義や課題等についてお話しいただき、日々の伝承活動が、農村集落の世代を超えた人間関係を育み、地域コミュニティの絆の強化や担い手づくりにもつながってきていることなど、伝統文化継承の様々な波及効果についてお話しいただきました。



吉川会長による取組事例の発表



語りフォーラムの様子

その後、平野氏をコーディネーターに、横山市長、吉川会長、菅原局長の3人がパネラーとなり、そして来賓の農林水産省農村振興局の林田直樹次長にオブザーバーとしてご参加いただき、「農業農村から学ぶ自然との共生の精神^{こころ}」をテーマに意見発表をしていただきました。

横山市長からは、「自然と共生するため、必要な場合には新たな条例の制定も視野に入れながら、市民の意識高揚に務めていきたい」とのご発言がありました。

吉川会長は、「地球環境は『先祖から受け継いだものでなく、子孫から借りているもの』という言葉을忘れず、今後も美しい自然を守り続けていきたい」と思いを語られました。

菅原局長は、「災害を乗り越えてはじめて「共生」が成り立つ。そのためには精神的な柱が必要で、伝統文化もその一つ。伝統文化を守るのは自然との共生には不可欠」とのご意見を述べられました。

そして、林田次長からは、「今日の講演や語りは、『自然との共生』をテーマにとってもよくまとまっており、コンセプトもよかった」との評価をいただくとともに、「3人のパネラーの意見を聞き、県、市、地域組織がしっかりと役割分担や課題意識を持って取り組んでいると感じた。こういう理解を全国に広めていきたい」とお話しされました。

最後に、鳥海山小滝舞楽保存会の皆様方に、小滝番楽の「松迎え」など3演目を披露していただき、3時間半近くに亘った交流会は、盛会のうち終了いたしました。



鳥海山小滝番楽

※交流会参加者のアンケート調査結果につきましては、別添「アンケート集計結果」をご覧ください。

※プログラム、主催等につきましては、別添「語り部チラシ」をご覧ください。